

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

新豆腐今宵の猪口は益子焼

江曾島本町 中村 元吉

●特選の選評

新しく収穫した大豆で作った豆腐を新豆腐と言ひ、「秋の季語」である。作者は「今日から新豆腐です」の貼紙を見て早速一丁買つて帰り熱燗で……。今宵の晩酌は大切な名品、あの益子焼の猪口を使って……。作者のえびす顔が目に見えるような一句である。私の夫も大の日本酒好きで、よく夕食前には徳利一本をうれしそうに、小さな盃を口に運んでいた姿が思い出されて懐かしくなつた。

俳句



加茂都紀女先生

入選

迎火や夫を車に連れ帰る

西2丁目 佐藤 順子

夏五輪セーヌ川に集ふ万国旗

平松3丁目 伊藤 安

浴衣持て着付習ひに孫娘

東岡本町 志鳥 香代子

馬場町にかかりまつりの極限に

石井町 吉澤 伸人

特選

揺れ合ひて揺れて違へて百合の花
昼下りの庭に涼を呼びをり

清原台5丁目 北市 邦子

●特選の選評

八月はお盆に終戦記念日、高校野球に花火、お祭り、それにオリンピックと、災害級の酷暑さえなければ話題に事欠かなかつたが、作者は庭の百合の花の揺れる様を見事に表現し、感服しました。同じように首を振つたり、違えたりするのですね。一瞬、暑さも忘れて見入つた作者がそこにいます。

短歌



藤本 都先生

入選

若人の白球飛びかう甲子園
終れば北は行合の空

針ヶ谷1丁目 糟屋 宮子

栄耀パリ躍動送る電波塔
瑞穂にとどくセーヌのしづく

元今泉2丁目 大塚 哲男

祭囃子響動もす夏の暑き空
浴衣の人の涼しげに行く

大曾5丁目 岩淵 煦美子

満々と水を溜め置く大池に
虹の端届き天地を繋ぐ

清原台6丁目 小太刀 節子

特選

自分では気付かぬ癖を孫が真似

南大通り1丁目 根本 初枝

●特選の選評

なくて七癖と言われるくらい、人には自分でも気付かぬ癖が多々あるらしい。そんな癖の一つが同居でもない孫に受け継がれている事を他人から指摘され、血は争えないものだと感じる時がある。

川柳



佐藤隆久先生

入選

負けて泣き勝つて涙のパリ五輪

平松本町 川野 和美

届かない物に手を借す杖の先

鶴田町 鈴木 芙美子

二ヶ月の暮らしを計る年金日

立伏町 大樹 龍五郎

物価高貧乏性が活きる時

山本2丁目 鈴木 豊子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

裏

3208540
住所・氏名・壇名
宇都宮市役所
広報広聴課

作品への思い
作品への思い